

マスク

理事長 永井 俊彦



「……乗車にはマスクを着用し、会話をなるべく控えるようお願い致します」と、車内放送が流れた。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策である。

令和2年1月にわが国でも確認された"新型コロナウイルス感染症"は現在も収束せず2度非常事態宣言が発出され、"マスクの着用、手洗いや咳エチケット、三密を避ける"といった3つの基本を取り入れた生活様式が求められています。

マスクは飛沫感染予防に有効であり、一時期入手困難な時もあり、俗に"安倍のマスク"と言われるマスクが全国民に配布された。

使用目的は異なるが、昔からマスクに似た物がある。神様が遷座される時や仏前に献華、献茶をする時などに神官や僧侶が御神体や御本尊に息がかからないように用いられる物で、神道では"口覆くちおい"と言い仏教では"覆子ぶくす"など宗派により呼び方が違うという。

わが国で現存する疾病予防を目的とした最も古いマスクの記録(書物)は、備中笠岡(岡山県笠岡市)の蘭方医・宮太柱みやたちゅうが鉈山病を調べた報告書『済生卑言さいせいひげん』である。安政2年(1855)宮太柱は石見大森(島根県大田市)の石見銀山の鉈山病対策に招かれ、"気絶けだえ"：鉈山病で灯り(石見銀山では螺灯らとうと言ってサザエの殻に油を注ぎ火を灯す)の煙を吸うことで起きる呼吸器疾患、"よろけ"：鉈塵による珪肺、などの予防対策をまとめ換気対策と防護用具として覆面マスクを挙げ実践している。この中に"福面ふくめん"というマスクが絵図と共に記載されている。

"福面"は鉄枠に絹地を柿渋で染め重ね、間に梅肉を挟んだもので梅肉を挟むことで呼吸苦がなくなったと言われている。

無症状感染者が存在する限り「感染しない」、「感染させない」を実行するためには"口覆"、"福面"の利用目的を備えた"マスク"の使用が重要なのである。